

お墓参りや仏壇が子供の優しさを作る？

「供養」習慣が「やさしさ」育てる

民間企業と尾木ママが共同調査

「お墓参りなどの先祖

供養の経験は、他人への思いやりを高めることに役立つのではないかと」ということは、以前から言われてきたことであるが、それを統計学的に裏付ける調査結果が発表された（詳細は2面に掲載）。今回の調査が行なわれたきっかけは尾木ママこと教育評論家・尾木直樹氏の発言である。

今年4月23日に行なわれたイベント『母の日参り』ハートフルタイム・尾木ママ「母を語る」

集い（主催

株）日本香堂で講演した尾木ママに對する取材時に、記者から「ご専門の教育という観点からお墓参りの意義や役割をどうお考えでしょうか」と質問。



教育評論家・尾木直樹氏

「お墓参りの回数と子供のやさしさ度合や気遣いの度合などの関連について統計をとって調べてみれば、おそらく強い相関関係が表れるのではないかと思います。お墓参

りというのは日本の伝統文化ですし、宗教を問わず広く大きな教育的意味を持つと思います」との返答があった。

尾木ママのこの見解をもとに株）日本香堂では、多くの帰省・墓参が見込まれる秋のお彼岸を前に、全国の中学・高校生12

36名を対象として『子ども達の「供養経験」と「やさしさ」の関係性』調査を実施、その調査結果を9月11日に発表した。

尾木氏の指導・監修のもとに設計・実施が進められた今回の調査で、習慣的な墓参りや仏壇礼拝の経験値が他者へのコンパッション（やさしさ・思いやり）における統計的有意差に影響していることが認められる形になった。

この調査結果は、供養が情操教育に良い影響を与え、他人を思いやることのできる心を育む効果があることを裏付けるものであり、墓石や仏壇を扱う供養業界にとっては朗報だといえる。墓参り

仏壇礼拝の意義を社会に訴求していく上でも説得力のある客観的資料の一つになるものと思われる。

2面に続く

2015年『日本石材工業新聞』の記事です
調査結果は別にありましたが、この紙面上では省略させていただきました。

コロナ自粛期間にみつけた、興味深い記事でした。

『終活』で本当に大切なこと… (私もよく感じることです)

お葬式やお墓が誰の為にあるのかということになると、もちろん、色々なご意見はあると思いますが、やはり、故人の面倒を最後まで見た人が、周囲の人からそのお葬式やお墓を見てどのように思われるかということも大切です。つまりお葬式やお墓は、残された人たちのものでもある訳です。それなりに費用がかかるものですし、やり直しもききません。そしてそのせっかく準備したのに対して、それを見た人から何かマイナスなことを言われるのは、大変つらいことだと思います。

「終活」という言葉もすっかり定着したように見受けられますが、それでもまだまだ、ご自身のエンディングについて「自分が死んだ後は適当にやっておいて」という方もいらっしゃいます。こうした言葉の根本には、残されるご家族に対する遠慮があるのかもしれませんが、また、少し照れ臭いというお気持ちもあるでしょう。しかしそんな優しいお気持ちがあるならば、残された人が、周りの人からどう思われるかということについても、「そんなやつらはほっとけ。」ではなく、少し意識しておくべきだと思います。

(鎌倉新書より抜粋)

住職より「葬儀会館やその金額を決めることは、今の時代はネットがありますから残されたご遺族でも簡単にできます。それよりも本人に生前示しておいて欲しい大切なことは、**葬儀に関して金額ではなく誰に来て欲しいのか(人数の把握)、そしてどこに納骨して欲しいのか。**意外と残されたご遺族の皆さんは、いつも悩まれています。

【令和3年のお寺行事 (3月まで)】*4月以降は次号にてご案内させていただきます。

月	日	行事	内容
1月	1~3日	修正会	お正月の初詣の帰りに、ご先祖様にも新年のご挨拶にお寺へお越し下さい。
2月	15日	涅槃会 (非公開行事)	涅槃会とは、お釈迦様がお亡くなりになられた日に行われる行事です。
3月	20日	春彼岸墓参	午前中、舞子墓園普照院墓地にて。
	23日	春彼岸塔婆供養会	午後2時より、本堂にて。

★変更等がある場合は、後日ご連絡させていただきますので、ご容赦下さいませ。

〔編集後記〕コロナで不安な毎日だと思いますが、小冊子にもありましたように、その不安を少しでも小さくできるのが仏のお教えです。共に祈りましょう。 合掌

発行：[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町4-1-29

電話 078-671-1787 ファックス 078-330-1187

ホームページ <http://fusyoin.com/>



これからは、お寺もどんどん情報を発信します。

とくに次世代をになう、若い方々・お子様たちに教えてあげてください。